



## 神の御手をしっかり握る

---

幼い子どもが親に手を伸ばして抱っこしてもらおうとするのはどうしてでしょう。愛情を求めているからか、怖くて守ってほしいと思っているからでしょうか。ただ歩き疲れて、抱っこしてほしいという場合もあるでしょう。

私たちクリスチャンも同じではないでしょうか。愛されたい、守られたい、困ったときに助けてほしいと思うのではありませんか。

私たちの助けはどこからくるのでしょうか。  
詩篇の著者はこう言いました。

**詩篇 121:2** 私の助けは、天地を造られた【主】から来る。

先週、神のみことばを知り、それを握りしめることが重要だと話しました。そうすることによって、たましいの敵から自分を守り、戦うのに必要な知識やスキルを得ます。ただし、その戦いに耐え抜く力が私たちにはあるのでしょうか。

**エペソ 6:10b** 主にあって、その大能の力によって強められなさい。

私たち自身にはそのような力はありません。主が私たちに力をくださるのです。主を離れては、私たちは何もすることができません。(ヨハネ15:5)

また一方で、パウロはこう言いました。

**ピリピ 4:13** 私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。

私たちクリスチャンは、神の全能の力によって強くなれます。つまり、私たちの力は、自分自身から湧くものではないということです。

パウロには、彼の持つ優れたみことばの知識でさえも乗り越えられない肉体のとげがありました。それについて、こう語っています。

**2コリント 12:8** このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。

2コリント 12:9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。

2コリント 12:10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。**なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。**

自らの弱さを認め、神の力に頼るなら、どんな困難も克服できます。逆もまた真なりです。自分が強いとき、つまり、誘惑などに負けない、自力で試練を乗り越えられる、と思うときこそ、一番弱いときであり、つまりきやすいときです。

自分の弱さを認めるのは、結構なことです。それを謙遜というのです。

**1ペテロ 5:6** ですから、あなたがたは、**神の力強い御手の下にへりくだりなさい。**神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。

使徒パウロのように、神のみことばを知っていたとしても、日々直面する試練や誘惑を耐え忍び、乗り越える力は、主の御前にへりくだることによって与えられます。

**詩篇 44:3** 彼らは、**自分の剣**によって地を得たのでもなく、自分の腕が彼らを救ったのでもありません。ただ**あなたの右の手、あなたの腕、あなたの御顔の光が**、そうしたのです。あなたが彼らを愛されたからです。

聖書には、神の全能の力がはっきりと描かれています。次の個所もその一例です。

**詩篇 89:13** あなたは力ある腕を持っておられます。あなたの御手は強く、あなたの右の手は高く上げられています。

モーセはこう語りました。

**申命記 7:19a** あなたが自分の目で見たあの大きな試みと、しるしと、不思議と、力強い御手と、伸べられた腕、これをもって、あなたの神、【主】は、あなたを連れ出された。

多くの個所で、比喩表現が使われています。次はその一例です。

**出エジプト記 15:6** 【主】よ。あなたの右の手は力に輝く。【主】よ。あなたの右の手は敵を打ち砕く。

これは、葦の海でエジプト軍がおぼれたことについてです。大きな腕が天から降りてきて、エジプト軍を打ち砕いたのを見た人はいません。しかし、主の御力の働きを人々は見たのです。神の手は、神の導きと慰めの象徴でもあります。

**詩篇 139:10** そこでも、あなたの御手が私を導き、あなたの右の手が私を捕らえます。

主を知れば知るほど、私たちの人生に神の御手があると信頼し、その働きに気づき、また喜ぶことができます。

「キリスト教と世界中の他の宗教の違いは、こうである。他の宗教では、人が神に届こうと手を伸ばす。キリスト教は、神が人に向かって手を差し伸べられる。」

これは非常に重要な違いです。

宗教とは、信条体系または道徳的規定です。宗教は、その規律規範、伝統、または儀式などに対する従順の度合いによって人の適否を判断します。宗教は、権力者が自らの権力を増し、それを保って行使していくために、人に強いるというのが世の常です。宗教は人が作り上げたものであり、神のみこころではありません。神が望まれるのは、交わりだからです。義務ではなく愛から発する交わりを望まれます。

宗教の本質は、神と正しい関係を持つためにしなければならないことです。キリスト教の本質は、神との正しい関係を持つチャンスを与えるために、神がすでにしてくださったことです。宗教は、良い行いや特定の儀式、祭礼を遵守することによって、救いを獲得しなければならないと教えます。キリスト教は、私たちの悪い行いに対する犠牲はキリストがすでに払ってくださったと信じるだけだと教えます。ただ信じるだけです。

**ヨハネ 6:28** すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行うために、何をすべきでしょうか。」

**ヨハネ 6:29** イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を**信じる**こと、それが神のわざです。」

神の御手は、私たちすべてに差し伸べられています。私たちはただそれを握ればよいのです。

そんなに簡単で、神のすばらしい恵みがいつも私たちに赦してくれて、ただ信じるだけでよいなら、これからもずっと罪を犯し続けてよいということでしょうか。みことばを学んだり、肉の欲を殺そうと葛藤したりする意味はあるのでしょうか。ただ信じて救われればよいではありませんか。

これは昔からずっと議論され続けていることです。神の恵みか、人の責任か。

ある人々は「心配無用。一旦救われれば、救いを失うことはない」と言います。素晴らしい神の恵みです。これに対し、ある人々は「あなたは準備ができていなかった。備えていなさいとイエスが警告されたのに。そうしなければならなかったのに、残念ながらも手遅れだ」と言います。まったく残念な話です。

このように、神を愛するクリスチャン同士が聖書の教えで対立することがあります。誰が正しくて、誰が間違っているのでしょうか。どちらもずいぶん極端な考えのようです。いずれにせよ、

**2000年前から続く議論を今日解決することはできないでしょう。**

今日この話題を持ち出したことで、私に味方が増えるわけでもないことはわかっています。しかし敢えて、私の考えが偏らないよう役立ったいくつかのみことばを紹介します。

**2ペテロ 1:10** ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行っていれば、つまりくことなど決してありません。

「これらのことを行っていれば、つまりくことなど決してありません」とパウロは言いました。

私たちの召されたことと選ばれたこと、つまり救いを確かなものとするのは、私たち自身の責任です。

信じれば、神の恵みは無償で与えられます。一方で、神の恵みのありがたみを忘れないようにする責任が私たちにはあります。このふたつをどう捉えればよいのでしょうか。

聖書はその両方について随所で語ります。

**ローマ 6:23** 罪から来る報酬は死です（責任）。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです（恵み）。

**1コリント 6:9** あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、  
**10** 盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者はみな、神の国を相続することができません（責任）。

これらのことを行わないという私たちの責任がここに書かれています。しかし、次の聖書箇所にはこうあります。

**1コリント 6:11** あなたがたの中のある人たちは以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです（恵み）。

**1ヨハネ 1:9** もし、私たちが自分の罪を言い表すなら（責任）、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます（恵み）。

**エペソ 2:8** あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。

**9** 行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです（恵み）。

**エペソ 2:10** 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです（責任）。

姦淫の現場で捕らえられた女に対してイエスはこのように尋ねられました。

**ヨハネ 8:10** イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」

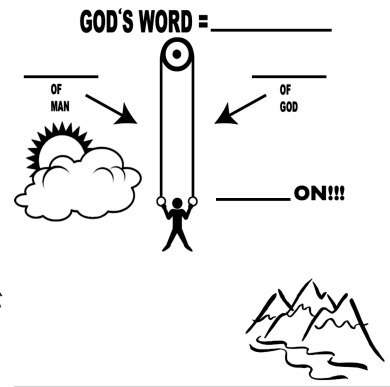
**ヨハネ 8:11** 彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない（恵み）。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」（責任）

神の恵みと私たちの責任は両方とも、しっかり握っておくべき聖書の真理です。私たちの責任を無視すれば、極端な自由主義に走ってしまいます。神の恵みを無視すれば、極端な律法主義に偏ります。バランスを保つためには、両方の真理をしっかり握っておく必要があります。

ここで、イラストを使ってわかりやすく説明してみましよう。

まず、神の御言葉は真理です。そして先ほど見たように、聖書は神の恵みと人の責任について明確に語ります。これらの真理は矛盾しません。聖書は両方の真理を教えます。

神の御言葉がとても長いロープで、天にある滑車から両側にそのロープが吊るされ、私たちがどちらからでも掴めるようになっていてと想像してみてください。



その両側のロープがどこで繋がっているのか私たちには見えません（視界には入らない）...しかし、信仰によって、私たちはそのロープが繋がっていて、同じロープであること、同じ真理であることを信じます。

さあ、あなたは両方のロープを空中で掴んでいます。

両方のロープを掴んでいれば、バランスが取れて安定します。そうですね。

ここで成し得る最善のことは両方に捕まっていることです。

しかし、もしあなたが神の恵みだけにしがみつき、自分の責任を放棄してしまったらどうなるでしょう。まっさかさまに落ちてしまいます。

私たちの責任を無視すれば、自由主義に走ってしまいます。

ちゃんと捕まっています。

そして、もしあなたが人の責任だけにしがみつくことにし、神の恵みを手放したらどうなるでしょう。まっさかさまに落ちてしまいます。もしあなたが神の恵みを無視すれば、律法主義に偏ります。

パウロは言いました。

**2テモテ 3:16** 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

イエスはこうおっしゃいました。

**ヨハネ 17:17** 真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。

あなたはこのことを信じますか。もしそうなら、ちゃんと捕まっています。自分に都合の良い聖句だけを拾って、残りを手放すようなことはしないでください。

偏らない健全なクリスチャンは聖書の全体を握ります。神のすべての教えです。

誘惑されたら、忘れてはいけません。罪を犯さないよう抵抗するのは、神の子である私たちの責任です。

しかし、もし負けてしまったら、罪を犯してしまったらどうすればよいでしょう。

立ち上がってください。いつまでもそのままいて、サタンに勝利を渡してはいけません。サタンの業を打ち壊すために、イエスは来られました。

覚えていきましょう。

**ローマ 8:1** こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者、肉に従って歩まず、霊によって歩む者（責任）が罪に定められることは決してありません。（恵み）